

# 中国における日本語授受表現教育の問題点について

## Problems in Teaching Japanese Benefactives to Japanese Learners in China

文学研究科国際言語教育専攻修士課程修了

張 敬 唯

ZHANG JINGWEI

### 1. はじめに

日本語の授受表現は日本語の中で重要な文法表現の一つであり、中国語母語話者の日本語学習者(以下、本稿では日本語学習者と呼ぶ)にとって、習得が難しい学習項目の一つだとされている。例えば、日本語学習者の初級者は授受表現が既習であっても、過剰に「あげる」を使ったり、「くれる」や「もらう」を脱落したりする。すなわち

1. A (先生) : 今度の土曜日引っ越しします。

誤 B : 私は土曜日がひまなので先生の引越しを手伝ってあげます。—過剰に「あげる」を使う

正 B : 私は土曜日ひまなので、お手伝いします。

2.  誤 いま、わたしのにほんごはたくさんしりませんから、ともたちはしんせつにおしえます。

—「くれる」を逸脱する

正 今、私は日本語をあまり知りませんから、友達が親切に教えてくれます。

3.  誤 田中さんが車で日光に連れて行きましたので、とても楽しかった。—「もらう」を脱落する

正 田中さんに車で日光に連れて行ってもらって、とても楽しかった。

(以上、《日語誤用辞典》を参照)

上のように、授受表現は日本語によるコミュニケーションを円滑に進める上で、非常に重要であるとともに、日本語学習者にとって大変難しい学習項目である。そのため、いかに授受動詞の用法を理解し、いかに教育に結びつけられるかを考察することを研究テーマとした。小稿の目的は以下の三つである。

1. 授受表現の習得の重要性を確認する。
2. 日本における先行研究と中国における先行研究を検討し、アンケート調査を通じて、日本語学習者の授受表現の習得における問題点を探り、授受表現の誤用が生じる主な原因を指摘する。そのために、意識調査を行い、「恩恵」の意味や主な誤用を引き起こす要因を分析する。
3. 教科書や参考書、および試験が日本語学習者の授受表現の習得に与える影響を考察し、日本語学習者にとり望ましい日本語の授業のあり方を考えながら、授受表現教育の教え方の改善案を示す。

## 2. 先行研究

授受表現について、庵他（2001）は「授受表現は物の受け渡しや行為の往来を述べる際、表現主体が事象に対する恩恵や非恩恵かの主観的判断や事象の参与者との待遇関係に基づいて、『やる、あげる、さしあげる、くれる、くださる、もらう、いただく』という七つの授受動詞、及びこれらの授受動詞の文法化された形である『～てやる、～てあげる、～てさしあげる、～てくれる、～てくださる、～てもらう、～ていただく』という七つの授受補助動詞を使い分けるとき、それらの表現を『授受表現』とも『やりもらい文』とも呼ばれている。」と述べている。中国においても多数の研究で「授受表現」と呼ばれているため、本稿でも「授受表現」と称することにする。

松下（1928）は「利益態」という概念を提出し、3つに分け「自行他利態」「他行自利態」「自行自利態」と名付け、次のように説明している。

- ①「自行他利態」とは自分の動作に関して他人の利益になることを表すもので、  
「～て+さしあげる/あげる/やる」の文に当たる。
- ②「他行自利態」とは他人の動作に関して自己の利益となることを表すもので、  
「～て+くださる/くれる」の文に当たる。
- ③「自行自利態」とは他人の動作を受けて自己の動作とし、その受けることか自己の利益であることを表すもので、  
「～て+いただく/もらう」の文に当たる。

大江（1975）は「くれる」について、『恩恵を与える人は常に話し手以外の人であり、恩恵を受け取る人は常に話し手である。また「クレル」の意志の所在は動作の主語である。』と述べている。

奥津（1984）は、「私たちは毎日のようにものを与えたり、受けとったりしている。バスに乗れば、車掌さんに料金を渡し、切符を受けとる。世界のどの社会にも、このような授受の現象はある。ただ、ことばによるこのできごとの表現は、いうまでもないが、言語によって異なる。基本的な授受動詞として英語なら give と receive の2語ですむところを、日本語では『クダサル・クレル・サシアゲル・アゲル・ヤル・イタダク・モラウ』と7語もあって、正しく使い分けなければならない。単純に計算すれば、日本語は英語の3倍半もむずかしいわけである。」と述べている。毎日物を与えたり、受けとったりしているが、筆者のような日本語学習者は、中国で日本語を勉強する時に、日本語の場合の授受の現象を言語化する重要性を認識しておらず、また聞く機会も少なかったため、授受表現を使う頻度は非常に低かった。日本語母語話者が毎日のように授受表現を使うことが分かったのは、日本に來てからである。

中国語の場合授受動詞には、“給”“得到”などがあるが、基本的に“給”の一語ですむ。例えば、

- (1) 私は友達に本をさしあげた。{我给(了)朋友一本书。}
- (2) 友達は私に本をくれた。{朋友给(了)我一本书。}
- (3) 私は友達から本をもらった。{朋友给(了)我一本书。}



- ④ 絶対的な上下の差がない場合には、話し手と聞き手には心理的に何らかの点で「行為者側が上位」という関係があるとする。
- ⑤ 心理的な上下関係がない場合は、話し手は、聞き手がその行為を喜ぶということがわかるほど、聞き手と「親しい関係」にあると考えられる。

一方、日本における授受表現の研究に基づき、中国語母語話者の日本語研究者も日本語授受表現について様々な研究を行っている。

刘 (2005) は、日本語授受表現は単に「与える」「受ける」ではなく、日本人特有の「恩恵意識」も含んでいる。日本語授受表現を使う時、日本の文化に基づき、「日本人の恩恵意識」を理解しなければならないと記述している。

段 (2009) は、日本語授受表現は物の授受だけでなく、日本人の「恩返しをしなければならない」という心理により、恩恵的な授受関係をあらわすことになると述べている。刘他 (2011) は、日常生活では日本語授受表現を使う頻度が非常に高い。特に「与益行為」「受益行為」を説明する時頻繁に使う。日本語学習者は恩恵関係を理解できないので、授受表現が習得できない。授受表現の使い方は主に日本人特有の「恩恵授受意識」と繋がっているという。段 (2014) は、日本語授受表現は物の移動をあらわす「与える」「受ける」の意味を持ちながら、日本人の特有な「恩恵意識」もあらわれていると述べている。

以上のように中国において授受表現に関する研究は、授受という表現は単純に物の授受ではなく、日本語母語話者の特有な「恩恵」意識と繋がり、その「恩恵意識」を理解しないと授受表現を習得できないとしている。授受表現に関する研究は、日本も中国も重なっている。それでは、文法的に正しい授受表現の文を指導すれば、日本語学習者は習得ができるようになるのだろうか。

ここで、授受表現に関する文献を読んでいて気付いたのは「恩恵」という言葉である。中国語にも「恩恵」という言葉があり、漢字も同じであるが、中国語話者は「恩恵」という語を見た場合に頭に浮かぶ意味は、日本語の「恩恵」の意味とは違う可能性がある。例えば、奥津 (1984) は補助動詞文で「先生がピアノヲヲヒク」という行為が、恩恵として「先生」から「私」へ移動すると考えるのであると説明している。しかし、中国語母語話者にとっては、先生がピアノを弾くという行為は「私」にとってその演奏がどんなに美しくても恩恵性は持っていないと感じられる。

また、原田 (2006) は、日本語の依頼表現は、下記 (13) ~ (15) のように恩恵授受表現を用いてなされることが多いと述べている。しかし、中国語母語話者にとっては、すくなくとも (14) の写真を撮るといふのは恩恵的な行為ではないだろう。

(13) 教えてくださいませんか。

(14) 「あの神社近くの家の写真を撮っていませんか。」

(15) カメラを持った子ども連れの夫婦に「シャッターを押してもらえませんか」と頼まれました。

また (13) の教えるという行為は、百パーセント恩恵的な行為とは認められず、前題条件により、

恩恵性があるかどうかを判断する。

しかし、今まで読んだ中国語の文献から見ると、多くの中国語母語話者の研究者はそのまま「恩恵」という語を引用し、日本語と中国語には同じ漢字語「恩恵」意味の相違点には気づいていないようである。例文(16)(17)(刘他 2011)(18)～(19)(段 2014)をあげて説明しよう。

(16) 写真を撮ってもらう。(给我照了照片)

(17) はがきを買ってくれる。(给我买一张明信片)

(18) 李さんたちを部屋へ案内してあげましょう。(带小李他们参观一下房间吧)

(19) 友達は来週のピクニックに家族を誘ってくれた。(朋友邀请家里人下周一一起去郊游)

(16)～(19)は近年の中国語の論文中の例文である。ここでとりあげられた行為は「写真を撮る」、「はがきを買う」、「案内する」、「誘う」である。それらは中国語母語話者にとって、訳文からもわかるように恩恵と断定できる行為ではないだろう。授受表現に関する様々な研究を重ねているが、基本的な用語の「恩恵」の意味について、日本語と中国語の違いを理解していないというのは大きな問題点ではないだろうか。

### 3. 調査と分析

以上の疑問を明らかにするために、アンケート調査を実施した。

#### 3.1. 授受表現の把握状況について

3.1.では、今まで日本語授受表現に関する研究が数多くなされてきたが、日本語学習者は未だに日本語授受表現をよく把握していないことを示し、日本語学習者に向く日本語授受表現をさらに研究する必要があることを証明する。授受表現の習得程度は勉強時間数、地域、学校と関係があると思われるが、授受表現が既習である中国語母語話者の日本語学習者の一般的な授受表現の把握状況を知るために、地域、学年と学校を問わず、中国語母語話者の日本語学習者 121 名を対象にし、アンケート調査を行った。結果は表 1 に示す。アンケートは以下のようなものである。

1. 友だちからプレゼントを (A. あげました B. くれました C. もらいました)。
2. 先生に辞書を (A. さしあげました B. くださいました C. いただきました)。とても嬉しかったです。
3. 毎日、母が朝ご飯を作って (A. くれます B. もらいます C. くださいます D. いただきます)。
4. 先生、私の書いた作文を校長先生が (A. 褒めてくれました B. 褒めてくださいました C. 褒めてもらいました D. 褒めていただきました)。
5. 先生、来週のパーティーに (A. 参加なさりたいんですが B. 参加してほしいんですが C. 参加して下さってほしいんですが D. 参加していただきたいんですが)、ご都合はいかがでしょう。
6. 先生、この一年間いろいろ (A. 教えてもらって B. 教えてくださって C. お教えになって D.

教えられて)、ありがとうございました。

7. [バスの中で、年を取った人に] よろしかったら、(A. お座りになりませんか B. お座りになってくれませんか C. 座ってくれませんか D. お座りになりましょうか)。
8. 先生、推薦状を (A. お書きになりませんか B. 書いてもいいですか C. 書いていただけませんか D. お書きください)。
9. 先生、荷物がたくさんありますね。(A. 手伝ってあげましょう B. 手伝ってさしあげましょう C. お手伝いになりましょう D. お手伝いしましょう)。
10. 映画がよく見えないので、すみませんが、(A. 座ってもらいませんか B. 座ってくれませんか C. 座りませんか D. 座りましょうか)。

番号	誤答率%	番号	誤答率%
1	25.62	6	44.63
2	39.67	7	<u>57.02</u>
3	41.33	8	23.97
4	<u>60.33</u>	9	<u>64.46</u>
5	<u>57.02</u>	10	<u>61.16</u>

表1

表1を見ると、誤用率が50%以上になるのは、問題用紙の4、5、7<sup>1)</sup>、9、10である。

4の正解は「褒めてくださいました」のBである。「先生、私の書いた作文を校長先生が褒めてくださいました。」これは、先生は目上なので、Aの「くれる」とCの「もらう」を排することはわかっているが、「くださる」と「いただく」の使い分けがわからないために出た誤答である。5の正解は「参加していただきたいんですが」のDである。「先生、来週のパーティーに参加していただきたいんですが、ご都合はいかがででしょうか。」Aの「参加なさりたいんですが」とBの「参加してほしいんですが」を選択した日本語学習者はほとんどいない。問題になるのは4のように「いただく」と「くださる」の使い分けが十分に分かっていない場合である。9の正解は「お手伝いしましょう」のDである。「先生、荷物がたくさんありますね。お手伝いしましょう。」が誤用になる要因は「～てあげる」が「～てやる」の丁寧な言い方であり、相手が目上の人の場合に使うことは理解しているが、補助動詞としての「～てあげる」は、主体が動詞の表す動作を他者に対し恩恵として行うことを表し、日本語では目上の人や親しくない人に向かっては、直接使ってはいけなことを知らない、または、理解していないことにある。10の正解はBの「座ってくれませんか」である。「映画がよく見えないので、すみませんが、座ってくれませんか。」Aの「座ってもらいませんか」を選んだ日本語学習者が多い。それはお願いする時、「もらう」を可能形に変えないと聞き手が受益者になってしまうことを十分に理

<sup>1)</sup> 7番は勧めの用法であり、確かに誤用率は高いが、本研究では授受表現の補助動詞の用法を伴わないため考察の対象としない。

解していないためだと考えられる。

要するに、日本語学習者にとって授受補助動詞の習得は困難であり、相手は先生（目上の人）なので、授受表現よりも敬語を使う方が良いと考えて、結果的に誤用を犯すことが多い。また「もらう」系と「くれる」系を適切に用いることが難しく、日本語の授受表現の恩恵性の意味もよく理解しておらず、過剰に「あげる」の与益の表現を使うのも日本語学習者の特徴である。

### 3.2. 中国語母語話者の「恩恵」に対する意識調査

日本語と中国語で同じ漢字語「恩恵」の意味が違うことを明らかにするために、意識調査を行った。中国語母語話者と日本語母語話者を対象として、調査を行う予定であったが、協力を依頼した日本語母語話者は「感謝」か「感恩」かを区別して答えることは難しいと回答し、調査ができなくなった。「恩恵」には「恩」という語があるが、「感恩」は日本語の語彙ではないことによると考えられる。一方、中国語には中国語母語話者は「恩」を感じたら「感恩」という言葉を選び、自然に感謝の気持ちと区別するものと考えられる。その結果、調査対象は中国語母語話者 150 名のみとなった。アンケートと結果を 6 組に分けて分析する。

① 質問 1 迷路时问路，交警给你指路（道に迷って、お巡りさんに道を教えてもらった），你觉得：{感恩（恩を感じる）8% 那是交警工作的一部分（それはお巡りさんの仕事だと思う）10.16% 感谢（ありがたいことだと思う）81.33%}

質問 2 深山里迷路时，护林员指路给你（山の中で、道に迷った時、山保護官が教えてくれた），你觉得：{那是护林员的义务（それは山保護官の仕事だと思う）9.33% 感恩（恩を感じる）34% 感谢（ありがたいことだと思う）56.67%}

「道に迷った時、お巡りさんが教えてくれた。」の前に「山の中で」という条件を加えると、誰も教えてくれないと命を失う可能性があり、命は非常に大切なものなので、「感恩」になり得るが、逆に「道に迷った時、お巡りさんが教えてくれた。」の前に「商店街で」という条件を付けると、その場でお巡りさんに「ありがとう」を言って感謝すれば中国語母語話者にとって、十分だと考えると思われる。

② 質問 3 学校里老师教给你知识(授業中、先生が知識を教えてくださいました)，你觉得：{感恩（恩を感じる）34% 那是老师的责任（それは先生の責任だと思う）42% 感谢（ありがたいことだと思う）24%}

質問 4 放学后，老师辅导你功课(放課後、先生がいろいろ教えてくださいました)，你觉得：{那是老师的责任（それは先生の責任だと思う）5.33% 感恩（恩を感じる）53.33% 感谢（ありがたいことだと思う）41.33%}

「先生が教えてくれた。」の場合、授業中なら、「私」がいなくても、先生がシラバスにより知識を教えることになる。授業以外の時間なら、例えば、私は英語が苦手なので、先生がわざわざ「私」のために英語を教える。ここの『わざわざ「私」のために』（中国語：特意为我…）ということが加われ

ば中国語母語話者にとって、「恩」と感じやすくなる。そして、恩返しとして、頑張らなければいけないと考えるわけである。

③ 質問5 妈妈每天早上做饭给你(母は毎日朝ごはんを作ってる), 你觉得: {抚养子女是她份内的事(それは母の責任だと思う) 10.67% 感谢(ありがたいことだと思う) 12% 感恩(恩を感じる) 77.33%} 「感恩」は77.33%になったが、言語化すれば、日本語で「母は毎朝ご飯を作ってくれる。」といい、中国語で“妈妈每天早上做饭给我”と訳し、“给”になる。中国人にも恩恵意識があるが、日本人とは違いがある。恩恵意識は日本人ほど強くないとは言えず、ただアンケートを収集する時の交流<sup>2</sup>により、中国人は、恩恵は言葉で言うよりも、実際の行動で表現するべきだと考えられる。そのため、恩恵意識は言葉で表現されにくい。日本語の文に訳した意味には、人に恩恵を与える意味があるが、中国語で“给、让、叫、帮、”などの授受表現はただ客観的な態度で事実を述べるものであり、文字だけから見ると、恩恵意識は感じられないのである。

④ 質問6 忘记带橡皮同桌借给你(クラスメートが消しゴムを貸してくれた), 你觉得: {感恩(恩を感じる)6% 如果是ta忘记带橡皮你也会借给ta(また必要があれば、借りてあげる) 26% 感谢(ありがたいことだと思う) 68%} 消しゴムを借りたい場合は、正しく標準的な中国語なら“可以借我一下橡皮吗?”というが、同席するクラスメートから消しゴムを貸してもらいたい時、消しゴムを指しながら、“我用一下”或いは“橡皮”と言えば、授受表現を用いなくても問題ない。日本語の場合はこのような小さいことでも、「消しゴムを貸してもらえる?」或いは「消しゴムを貸してくれる?」といい、授受表現を使うことになるだろう。先行研究により、授受補助動詞「～てもらう」を使い、恩恵性がある行為になる。そのために、日本語母語話者にとって、「感謝」と「感恩」の区別はあるかもしれない、両方とも「恩恵」として捉えて、普通に受益表現を使うことができるのだと思われる。

⑤ 質問7 爷爷买东西给你小你一岁的弟弟(お爺さんは一歳年下の弟にプレゼントを買ってくれた), 你感到: {感恩(恩を感じる) 12.67% 嫉妒(嫉妬の目で見ると) 46.67% 感谢(ありがたいことだと思う) 40.67%}

質問8 爷爷买东西给你15岁的弟弟(お爺さんは十五歳下の弟にプレゼントを買ってくれた), 你

{感恩(恩を感じる) 18% 没感觉(自分と関係がない) 54.67% 感谢(ありがたいことだと思う) 27.33%}

「お爺さんは一歳年下の弟にプレゼントを買ってくれた。」と「お爺さんは十五歳下の弟にプレゼントを買ってくれた。」の二つの出来事について、「私」の気持ちとしては「嫉妬」か「関係がない」かに関わらず、「私」は私の父、兄や妹など、家族を含まない、「自分自身のこと」を指す。そのため、たとえ「恩」を感じることで、弟は「私」以外の人なので、授受表現を使わないことになる。

<sup>2</sup> 交流しながら、アンケートを収集した。ただ、許可を取った調査はインタビューではなく、結果として提出するのは無理である。

⑥ 質問9 求人办事时, 送去的礼物被收下了(お願いする時, プレゼントを受け取っていただいた), 你觉得: {感恩(恩を感じる) 4.67% 感谢(ありがたいことだと思う) 24% 开心(嬉しく喜びを感じる) 71.33%} 「プレゼントを受け取っていただいた。」であるが、実際には、私にとっては「プレゼントをあげた。」というのは事実である。気持ちは「嬉しい」「ありがたい」であるが、中国語母語話者はあげることが好きとはいえない。例えば、本稿の最初に引用した誤用の文「私は土曜日がひまなので先生の引越しを手伝ってあげます。」も同じである。「～あげる」文の誤用或いは過剰に使う。補助動詞として「～あげる」系の誤用の要因、恩着せがましい印象を与えることを理解していないと思われる。しかし、中国人の心理から見れば、学生にとって先生は神様のような存在で、いつもお世話してくれたり、いろいろ教えてくれたりする。偶然に先生が引越しを知り、先生に感謝するいいチャンスだと思うかもしれない。感謝の気持ちでそれを言語化すると「手伝ってあげる」になるかもしれない。

以上より、学習者が感謝の気持ちを持った時に、授受表現を使うと教えれば、もう少し理解しやすくなるかもしれない。しかし、日本語母語話者は、感恩や感謝の気持ちとは関係なく、話し手に関わる行為なら、基本的に授受表現を使う。この点が大きな違いである。

## 4. 中国における日本語授受表現教育の問題点

### 4.1. 日本語教科書の問題

中国で広く使われている4つの日本語の教科書は『新編日語』(周平、陈小芬著、上海外语教育出版社)、『総合日本語』(彭广陆、守屋三千代著、北京大学出版社)、『新編基礎日本語』(孙宗光、简佩芝等著、上海译文出版社)と『新・標準日本語』(人民教育出版社)であると思われる。本稿では、大学時代に教材として使われていた『新編日語』を対象として考察していく。授受表現の提示順序は『第一冊』第16課に授受表現の本動詞・本動詞の丁寧語、謙讓語、尊敬語の使い方であり、『第二冊』第7課に授受補助動詞を提出し、授受補助動詞の使い方が出てくる。詳しくは次の表2に示す。

「あげる」系		「くれる」系		「もらう」系	
～あげる	I 16 II 4、7	～くれる	I 16 II 17 IV15	～もらう	I 16、20 II 17、18
～やる	I 16	～くださる	I 16	～いただく	I 16 II 17
～さしあげる	I 16	～てくれる	II 7、8、15、 20 III 2、5、7、 10 11、13、14、16、 17、18 IV 1、4、7、8 9、12、13、14 15、16、17、18	～てもらう	II 7、18 III 1、2、5、 9、13、15 IV 2、9、12、 13、15、16
～てあげる	II 7、8、11 III 12 IV 13、15	～てくださる	II 7、12、13 III 8、10 IV 15、16、18	～ていただく	II 7、8、9、 12、14、15、 17 III 5、10 IV 1、5、15、 16
～てやる	II 7、10				
～てさしあげる	II 7				

注：I＝第一冊 II＝第二冊 III＝第三冊 IV＝第四冊；数字は第…課を表示する

表2

まず、授受本動詞について、『新編日語1』の第16課では、日本語には授受表現を表す動詞は「あげました」「もらいました」「くれました」「さしあげる」「やる」「いただく」「くださる」がある。「授」は与えるで、「受」は受けるである。中国語の場合は与えると受ける両方とも「給」で表す。この点で日本語の授受表現は中国語の「給」より複雑であることを指摘している。それから、授受本動詞・本動詞の丁寧語、謙譲語、尊敬語の文型及びそれぞれの方向性について以下（筆者訳）のように説明している。

(1) 甲は乙に～をあげる（さしあげる・やる）

甲が乙にある物を与えること、という意味である。甲は与え手で、乙は受け手である。一般的に受け手は第二、三人称である。受け手は格助詞「に」で表す。「あげる」「さしあげる」「やる」の区別は「あげる」は同輩或いは社会的地位が同じ人間に使い、与える相手は後輩、動物や植物などにも使える。「さしあげる」なら受け手が与え手より目上の時に使い、与え手は受け手に自分の敬意を表す場合

にも使う。ただし、他人に家族内の授受関係を述べる時は、「さしあげる」を使わず、「あげる」を使う。「やる」は、受け手は与え手より目下の時や親しい間柄の同輩の場合で使い、動植物に物を与える時にも使える。要するに、「あげる・さしあげる・やる」といった動詞を述語にする時、主語は与え手でなければいけない。例：わたしは王さんにアルバムをあげました。

(2) 乙は甲から…をもらう (いただく)

受け手を主語にし、与え手を補語にする。与え手は助詞「に」或いは「から」で表す。受け手が与え手の同輩や受け手は与え手より目上の場合に「もらう」を使い、受け手が与え手の目下である場合は「いただく」を使う。ただし、自分が両親や兄弟や姉妹からある物を受け取ることを他人に伝える時に「いただく」は使わない。例：いまお父さんから電話をもらいました。

(3) 甲は私に…をくれる (くださる)

主語は与え手でなくてはならない。受け手は話し手自身であっても、自分側の人であってもよい。「くれる」は、与え手が受け手の同輩或いは受け手より目下の場合に使う。他人に家族内の授受関係を述べる時、「くださる」を使わず、「くれる」を使う。「くださる+ました」は「くださいました」になる。例：顧さんは住所の地図をくれました。

授受補助動詞については『新編日本語 2』の第7課では、授受本動詞は具体的な「物」のやりもらいを表現する。それに対して、授受補助動詞は「動作」のやりもらいを表現するのであると以下のよう

(1) 甲は乙に(動詞の連用形)てあげる(さしあげる、やる)

甲は与え手で、助詞「は」によって表す。乙は受け手で、助詞「に」を使う。「～てやる」「～てあげる」「～てさしあげる」3種類があり、「～てやる」は一般的には甲と乙は親しい間柄、或いはくだけた会話の場合で使い、「～てあげる」は「～てやる」の改まった言い方であり、「～てさしあげる」は「～てあげる」丁寧語で、乙は甲より目上の人か年輩の人である時に使う。ただし、家族内での授受関係を述べると、「～てあげる」を使うのが普通である。「～てあげる」は恩着せがましい感じがあり、相手に不愉快を与え、使う際に注意する必要がある。例：田中さんは鈴木さんにチャハン<sup>3</sup>を作ってあげました。

(2) 甲は乙に(から)動詞の連用形てもらう (いただく)。

文型(1)(甲は乙に(動詞の連用形)てあげる(さしあげる、やる))と反対である。甲は受け手で、助詞「は」で表す。乙は与え手で助詞「に」か「から」で表す。「て」の前の動詞で行為を表す。「～ていただく」は「～てもらう」の謙譲語で、一般的には乙は甲より年齢や社会地位の高い人である。ただし、家族内での授受行為を述べる際、「～てもらう」を使う。例：李さんに本を貸してもらいました。

<sup>3</sup> 入力ミスではない、原文の用語である。

(3) 甲はわたしに(動詞の連用形)てくれる (くださる)

甲は与え手で、乙は「私」か身内の人である。そして、乙は常に省略される。「～てくださる」は「～てくれる」の尊敬の表し方であり、私より甲の地位が高い時に使う。ただし、家族内での授受行為を述べる際は、「～てくれる」を使う。例：友達はお祝いのあいさつをしてくれました。

以上の内容に関して、『新編日本語』には5つの問題があり、教える際に注意しなければならない。

①『新編日本語』では日本語の授受表現は中国語の「给」より難しいことを指摘しているが、具体的に何か違うのか、どこか難しいのか、説明していない。そのため、授受表現を教える際に「给」との区別を教師がしっかりと教えなければならない。

②文法項目「乙は甲から…をもらう (いただく)」のところに「から」のみ示していることである。説明文に『受け手を主語にし、与え手を補語にする。与え手は助詞「に」或いは「から」で表す。』と書かれているが、教える際に助詞「に」にもよく使われていることを強調する必要がある。

③文法的に正しい授受表現の文を説明するだけで、詳しい使い分けを説明せず、誤用の場面も提示していないために、教える際に注意しなければならない。

④教科書の例文だけでは「ウチ」と「ソト」の意識や「恩恵性」などは十分に説明できない。教える際に適切な例文で日本人の意識までを教える必要がある。

⑤『新編日本語』では授受動詞と授受補助動詞はそれぞれの一つの課だけで紹介されている。しかし、一度に提示すると、学習者が混乱しやすい、復習しながら、指導内容を深める必要がある。

その上、教育指導要綱に基づき、シラバスが作られているため、ほとんど文型の大切さを考えずに、1課が1週で終わる。文法的に正しい形式の授受表現の文を指導するだけでなく、場面を判断する能力が身につくような指導方法も必要である。

## 4.2. 日本語試験・参考書の問題

試験を大切にしている日本語学習者は、もし試験に授受表現に関連する出題が多数あれば、一所懸命に「授受表現」を勉強して、習得できるようになるかもしれないと思われる。そこで、日本語学習者にとって一番大切な日本語能力試験一級・二級と、中国の大学で日本語を勉強している学生を対象とする「日本語専門四級」と「日本語専門八級」の過去問から、授受表現の取り上げ方を調べた。

### 4.2.1. 日本語能力試験

日本語能力試験公式ウェブサイトに記載している「過去の試験のデータ」により、2009<sup>4</sup>における2016年7月まで中国語母語話者(香港、マカオ、台湾を除く)の受験のデータを整理し、表3に示す。

---

<sup>4</sup> 2009年は、試験を1年に2回実施した最初の年であり、また、試験改定前の最後の年にもあたり、新日本語能力試験と認められる。

中国における日本語授受表現教育の問題点について

実施年・ 回	応募者数 (人)	N1	N2	N3	N4	N5	N1・N2 応募者数 の比率(%)
	レベル						
2009	第一回 7月	65,385	81,826				
	第二回 12月	83,171	96,573	40,087	5,452		
2010	第一回 7月	43,646	55,267	11,984			
	第二回 12月	59,775	60,044	15,618	9,027	3,084	81.21%
2011	第一回 7月	58,047	63,077	13,140	4,018	1,428	86.70%
	第二回 12月	62,897	55,866	13,696	6,518	2,206	84.12%
2012	第一回 7月	50,464	50,935	13,913	4,447	1,798	83.42%
	第二回 12月	52,683	44,965	13,047	5,469	1,648	82.89%
2013	第一回 7月	47,549	47,345	13,091	4,535	1,517	83.21%
	第二回 12月	49,422	40,704	12,286	5,276	1,783	82.33%
2014	第一回 7月	47,181	46,555	13,218	4,722	1,766	82.63%
	第二回 12月	45,139	38,159	11,651	4,289	1,438	82.74%
2015	第一回 7月	44,247	45,628	13,432	4,735	1,738	81.87%
	第二回 12月	42,414	38,747	12,474	4,688	1,728	81.12%
2016	第一回 7月	42,394	47,303	14,358	4,738	2,091	80.89%

表 3

表 3 より、日本語能力試験には N1 から N5 までの 5 つレベルが設置されているが、80%以上の日本語学習者は N1 か N2 に応募している。このため、N1 と N2 の試験内容が日本語学習者の学ぶことに影響すると思われるので、本稿では N1 と N2 の内容を中心に文字・語彙、聴解、読解を除く、文法知識の「問題例」を分析する。ここで 2009 年 7 月から 2016 年 7 月までで手に入った日本語能力試験一級・二級の試験問題を整理し、試験に出された「授受表現」に関する質問を示す。

1. 「このたびは、私どもの商品発送ミスにより、お客様に大変ご迷惑をかけたことを 3 深く (1 わびていただきます 2 わびていらっしやいます 3 おわびいただきます 4 おわび申し上げます)。申し訳ございませんでした。」 (2010 年 12 月 N1 の 30 番)
2. 川村「石田さん、ギターがほしいって言っていましたよね。わたしの弟が使っていたギターがあるんですが、よければどうですか。」 石田「いいんですか。」 川村「はい。弟に聞いたら、弾いてくれる方がいるなら、ぜひとっていただきましたので、どうぞもらって (1 やりませんか 2 やってください 3 いただきますか 4 いただいください)。」 (2012 年 7 月 N1 の 35 番)
3. 田中「部長、先日提出した書類なんです、あれで大丈夫でしょうか。」 部長「あ、ごめん。ま

だ見てない。」田中「そうですか。すみませんが、なるべく早く（1見ていただけると助かるんですが2見ていただくんでしょうか3見ていただいたと思うんですが4見ていただい  
てはいかがでしょうか。）（2015年7月N1の35番）

4. 田中です。先日お話があったスピーチの件なんです、ぜひわたしに（1やっていたけ  
ないでしょうか2やらせていただけないでしょうか3やってもよろしいでしょうか4やら  
せてもよろしいでしょうか。）（2010年7月N2の39番）
5. ご予算に合わせて、花束をお作りします。送料無料で日にち指定の全国発送も（1申し上げ  
ます2差上げます3いただきます4うけたまわります。）（2013年7月N2の38番）
6. A「営業部の山下さんを御願いたいのですが。」B「申し訳ありません、山下はただいま  
会議で席を外しております。戻りましたらこちらからお電話（1いたしましょうか2申しま  
しょうか3くださいませんか4いただきませんか。）（2013年12月N2の43番）
7. 監督「みんな、今日は本当によくやった。この調子であしたの決勝戦もがんばろう。おれたち  
が勝って世間を（1驚いてやろう2驚いてもらおう3驚かせてやろう4驚かせてもら  
おう）じゃないか。」（2014年7月N2の42番）
8. わたしたちが旅館に着くと、従業員たちが笑顔で「ようこそ（1お越しくださいました2お  
伺いしました3お呼びいただきました4お迎えしました。）とあいさつしてくれた。  
（2015年7月N2の38番）

2009年から2016年7月（第一回目）まで、日本語能力試験には文法は55問あるが、日本語学習者にとって一番大切な日本語能力試験N1・N2で、「授受表現」についての問題が出たのは3回・5回で、頻度が非常に低かった。このことは学習者が授受表現の大切さを見落とす原因となるのではないだろうか。

#### 4.2.2. 日本語専門試験

中国の大学ではN1、N2以外に日本語を勉強している学生を対象とする「日本語専攻四級」と「日本語専攻八級」の試験もある。両方とも中国国内では客観的に日本語能力を正しく評価する試験であり、中国では権威のある試験である。「日本語専攻四級」は2002年以来、毎年6月に年一回、「日本語専攻八級」は2003以来、毎年3月に年一回、試験を実施することになっている。日本語学部の日本語学習者は教育指導要綱に要求される知識の理解状況を調べるために、中国教育部の高等学校外国語指導委員会に出題をさせる。本稿では、「日本語専攻四級」と「日本語専攻八級」の試験問題を整理し、文字・語彙、聴解、文章、読解、作文を除いた文法のうち「授受表現」に関する質問を分析する。例えば、日本語専攻四級では、次の通りである。

1. 早くお医者さんに見て（A. くれた B. あげた C. もらった D. やった）ほうがいいですよ。  
（2003の66番）

## 中国における日本語授受表現教育の問題点について

2. 車のブレーキが壊れたようですが、ちょっと (A. 見せてくれませんか B. みてくれませんか C. みられませんか D. みえませんか)。(2005 の 58 番)
3. 「もしも、交流課の田中です。山田さん、いらっしゃいますか。」 「あいにく席を外しておりますが、後ほど、折り返し電話をさせて (A. くださいます B. くれます C. あげます D. いただきます)。」 (2012 の 66 番)
4. 「もしも、交流課です。山田君いますか。」 「あいにく席を外しておりますが、帰ったらすぐ電話を (A. もらいます B. されます C. あげます D. させます)。」 (2013 の 59 番)

日本語専攻八級では、次の通りである。

1. 先生、分からないところがありますが、(A. ご説明させていただけますか B. ご説明してもらえますか C. ご説明くださいますか D. ご説明願えますか)。(2005 の 44 番)
2. そのことについて、これから私からもちょっと意見を言わせて (A. いただいた B. いただきたい C. いただきまう D. いただかない) と思いますが。(2006 の 44 番)

総合問題は 60 問があるが、統計により 2002 年から 2015 年まで日本語専門四級では「授受表現」についての問題が出た 17 回で、2003 年から 2015 年まで日本語専攻八級では「授受表現」についての問題が出た 8 回で「授受表現」に関連している問題が出た頻度が低い。また、「あいにく席を外しておりますが、後ほど、折り返し電話をさせていただきます。」のような問題や、「聞いて+授受動詞」や「させていただく」などの単純な問題だけか繰り返される状況になっている。このために、日本語授受表現は難しくないと思えるようになってしまったのかもしれない。また、中国で日本語学習者がよく使っている参考書は「日本語能力試験」などの日本語試験の合格を目指した本である。そして、それらの試験用の書籍では試験で授受表現が重視されていないことから、「授受表現」に注目されていない。その結果、日本語学習者も授受表現を勉強しなくなったのかもしれない。その他に「日本語専攻四級」と「日本語専攻八級」に向く広く使われている参考書《日语专业四级考试综合辅导与强化训练》(外语教学与研究出版社)と《日语专业八级考试综合辅导与强化训练》(外语教学与研究出版社)も調べたが、八級ではほとんど「授受表現」に関連する文法項目が出されていない。また、解説の内容も教科書とほぼ同じであった。

## 5. 終わりに

以上より、中国における日本語授受表現教育の主な問題点は以下の三点である。

1. 授受表現は日本語では文法的に必須であるが、これを理解しない中国の日本語教師、日本語学部の学生が少なくない。
2. 日本語母語話者の恩恵意識は日本語授受表現に反映しているが、授業中に日本語母語話者のこうした意識を指導するのは難しく、今の段階では不十分である。
3. 日本語の試験・教科書・参考書の改善が必要である。現実的には相当難しいが、特に試験を大

切にする中国語母語話者にとっては、まず試験を改善しなければならない。

今まで、中国の日本語研究者たちは日本語授受表現についての膨大な研究を重ねてきたが、日本語授受表現に対応する中国語授受表現に関する研究はまだまだ足りない。中国語の授受表現をよく知っていないと、こうした基本的な日中の授受表現の相違が分からなくて深い分析ができず、役に立つ教え方も探せないのではないだろうか。そのため、日中授受表現の対照研究をさらに進める必要があると思う。また、アンケート調査により、授受補助動詞を教える時、単に「恩恵の行為」を指導すれば役に立つと言うものではなく、「恩恵」という言葉をめぐる文化の違いも教えなければならないことが分かった。日本語学習者と日本語母語話者の考え方の相違が分かれば、日本語の授受表現を使う誤用を回避する可能性がある。また、これまでとは異なる、新しいマルチメディアなどを用いた教授法も開発できると思われる。しかし、教育現場での応用について筆者は経験不足であり、教授法は今後の課題である。本研究には、まだまだ問題を深く分析する余地があるが、これからも、授受表現の意味の考察と日本語教育への応用についてさらに研究を重ねて、言語による日中文化交流に貢献したいと思う。

#### 参考文献

- 1 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク（106 ページ-115 ページ）
- 2 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001・2013）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク（160 ページ-172 ページ）
- 3 池上嘉彦・守屋三千代（2012）『自然な日本語を教えるために』ひつじ書房（60 ページ-119 ページ）
- 4 市川保子（2015）《日語誤用辞典（汉语版）》世界图书出版公司
- 5 大江三郎(1975)『日英語の比較研究—主観性をめぐって』南雲堂
- 6 奥津敬一朗（1984）「授受動詞文の意味と文法」『日語学习与研究』1984・1
- 7 久野暉（1978）『談話の文法』大修館書店
- 8 グループ・ジャマシイ編著（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版
- 9 グループ・ジャマシイ編著 徐一平等訳（2001）『中文版日本語句型辞典』くろしお出版
- 10 寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版
- 11 原田登美(2006)「恩恵・利益を表す〈授受表現〉と〈敬意表現〉の関わり—特に「てくれる」を中心として文法的側面と社会言語学的側面から見る—」『言語と文化』第10号
- 12 松下大二郎(1928)『改撰標準日本文法』中文館書店
- 13 森田良行(1995)『日本語の視点—ことはを創る日本人の発想—』創拓社
- 14 守屋三千代（2002）「日本語の授受動詞と受益性～対照的な観点から～」『日本語日本文学』1ペ

- 15 山田敏弘 (2000) 『日本語におけるヘネファクティブの記述的研究第 1 回ヘテファクティブの視点の位置と方向性』「日本語学」vol.19.明治書院
- 16 段宏芳 (2009) “日语授受动词与汉语‘给’‘得到’的对比研究” 吉林大学
- 17 刘少东 王迪 (2011) “日语授受补助动词‘てくれる’的恩惠授受意识-兼析中国日语学习者之误区-” 《通化师范学院学报》第 32 卷第 9 期
- 18 张文燕 (2010) “日语中的授受动词和日本人的恩惠意识” 《科技咨询》NO.31
- 19 《现代汉语大词典》编委会编纂 (2010) 《现代汉语大词典》上海辞书出版社
- 20 《新编日语第一册》(2009) 上海外语出版社
- 21 《新编日语第二册》(2009) 上海外语出版社
- 22 《新编日语第三册》(2009) 上海外语出版社
- 23 《新编日语第四册》(2009) 上海外语出版社
- 24 <http://www.jlpt.jp/samples/sample12.html> (日本語能力試験のホームページ)